

山形県立村山産業高校（仮称）

# 教育基本計画

平成23年3月

教育基本計画策定委員会

# 目 次

---

1	村山産業高校（仮称）の基本理念	1
2	開校予定年度と入学定員等	4
3	設置学科と目標	4
4	教育課程	6
5	移行期の対応	9
6	開校に向けた準備組織及びスケジュール	10
7	施設整備計画	11

# 1 村山産業高校（仮称）の基本理念

## (1) 新高校が担う役割

### ○ 知徳体が調和し、「いのち」輝く人間の育成

新高校は、山形のもつ豊かな自然や歴史・文化と優れた技術を活かしながら、先人から受け継いできた知恵をつなぎ、新たな価値を創造する教育を目指し誕生する学校です。

本県が教育の理想像としてきた、「主体的に考え判断する知力」、「人と協調し思いやる優しい心」、「健康でたくましい身体」を備え、知徳体が調和した人間の育成を根幹に据えながら、社会情勢等の変化に対応した教育を展開します。

これからの社会においては、時代の変化を的確に読み取り、自らの人生を主体的に切り拓いていく、しなやかでたくましい心と体を持った人材の育成が求められています。

このため、幅広い知識、技能の習得とともに、それらを活用しながら困難な課題にも意欲的に粘り強く取り組み解決する力や、国際的なコミュニケーション能力を身に付け、地域や国際社会で活躍できる、創造的で自立した人材の育成を目指します。

### ○ 地域産業の振興に貢献する専門高校

新高校を設置する村山地域は、全国有数の果樹生産地域であるとともに、稲作等の複合経営農業の地域であり、また、電気機械を中心とした先端分野における「ものづくり産業」の集積地域でもあります。

昨今、産業を取り巻く環境の変化が激しい中で、価値の高い農産物や製品、サービスを生み出すことが求められており、地域産業の発展をけん引できる人材の育成が急務になっています。

農業科、工業科、商業科を併置した新高校では、基礎・基本の知識・技術をしっかり身に付けた上で、生産から加工、流通、販売を通じて付加価値を高めていく総合産業化への対応など、社会の変化や産業の動向に応じた教育の充実を図ります。

### ○ 専門的知識・技術を活かし社会的・職業的自立を目指す教育の展開

産業構造や就業構造が大きく変化している中で、若者世代の非正規雇用者、早期離職者の増加など、学校から社会・職業への移行が円滑に進んでいない状況は、深刻な社会問題になっています。

産業の振興や雇用対策が不可欠である一方で、学校教育においても、複雑化し多様化する社会環境の中で、社会人、職業人として自立できる教育が求められています。

新高校の農業、工業、商業の専門教育においては、社会で自立し活躍できる人材の育成のため、地域産業等との結びつきを重視します。

地域と連携しながら専門的知識・技術の習得を図り、かつ多様な職業に対応するための基盤となる能力の育成を図るとともに、卒業後の職業能力の伸長も支援します。

また、生徒が進路を選択し決定していくために必要となる、社会や職業についての理解を深める教育とともに、社会参画や社会貢献についての意欲を高める教育活動を展開します。

## (2) 目指す学校像

### ① 複数の学科が連携し、グローバルな視点に立った先進的な産業教育を展開する高校

- ア 県内初の、農業科、工業科、商業科の専門分野が連携した教育を推進し、専門の学習を実践的に活用していく力を育成します。
- イ 専門分野の基礎・基本の確実な定着を図り、職業人として必要となる高度な知識・技術及び技能に対応できる力を育成します。
- ウ 英語・中国語・韓国語などによるコミュニケーション能力を育成し、農産物の輸出、企業の海外進出、観光の振興など、社会経済のグローバル化に対応できる人材育成の要請に応えます。

### ② 産業・社会の変化を取り入れた教育活動を展開し、一人ひとりの進路希望が実現できる高校

- ア 総合選択制を導入し、生産、加工、流通を総合的に学ぶことができる教育を展開します。
- イ 課題の解決を図る学習活動や資格・検定の取得に取り組み、企業や高等教育機関からの積極的評価につなげます。
- ウ 地域を学びのフィールドとした実践的な教育を展開し、総合産業化など産業・社会の変化に対応した教育の充実を図ります。
- エ 専門家との交流ネットワークを構築し、高度な知識・技術やグローバルな実践活動に触れさせ、知的好奇心を喚起しながら進路実現への意欲を高めます。

### ③ 専門性を活かした環境保全活動やボランティア活動に取り組む高校

- ア 環境に関する学習を通して身に付けた知識・技術を活かし、地域の環境課題の解決に取り組めます。
- イ 地域と連携した、生命や環境に関する実験・実習、生涯学習講座の開設など、地域と学校の双方向の「学び」を実現します。
- ウ 地域行事やボランティア活動に積極的に取り組み、公共の心や社会性をはぐくみます。
- エ 各専門分野の学習を活かした国際貢献活動等に積極的に取り組みます。

### ④ 充実した特別活動等を推進し、主体性に富んだ学校文化を創造する高校

- ア 生徒会活動やホームルーム活動等を通してコミュニケーション能力や表現力をはぐくみ社会性を高めます。
- イ 部活動等を通して心身を鍛え、たくましく創造性豊かな生徒の育成を目指します。

### (3) 育てる生徒像

#### ① 将来のスペシャリストとして必要な知識・技能・態度を有し、それらの能力等を生涯にわたって発揮できる人

ア 明確な目的意識をもって進路を選択し、高度な知識・技術及び技能の基盤となる能力を身に付けるために努力する人

イ 職業人としての規範意識や倫理観等を踏まえ、地域産業の活性化をけん引できる人

#### ② 地域の産業・社会を担う実践力を備え、他分野とも連携して変化に適切かつ柔軟に対応できる人

ア 高い志と挑戦する心を持ち、企業や農業法人等で「食」「ものづくり」「サービス」分野の価値を高めていくことができる人

イ 新たな状況に対応しながら課題を解決し、経営感覚や豊かな創造性を持った人

#### ③ 郷土を誇りに思い、社会貢献を通して自己実現を目指す人

ア 地域の良さを理解し、地域課題に主体的に取り組みながら、地域資源を活用したまちづくりに参画できる人

イ 地域社会や学校でのより広い「かかわり」を通して、自己を磨き成長する人

### (4) 教育目標

① 「知徳体」が調和した豊かな人格をはぐくみ、誠実な行動により社会の信頼に応える人間を育成する。

② 次代を拓く知識や技術・技能を養い、グローバル化に対応した地域産業の発展を担う人間を育成する。

③ 高い志と挑戦する心を持ち、活力ある社会を牽引できる人間を育成する。

## 2 開校予定年度と入学定員等

### (1) 開校予定年度 平成 26 年度（平成 26 年 4 月開校）

県立村山産業高校（仮称）の開校に伴い、県立村山農業高校、県立東根工業高校は平成 25 年度末で閉校します。

### (2) 入学定員 1 学年 200 名（5 学級）

農業に関する学科 80 名（農業経営科（仮称）40 名 環境創造科（仮称）40 名）  
工業に関する学科 80 名（機械科（仮称）40 名 電子情報科（仮称）40 名）  
商業に関する学科 40 名（流通ビジネス科（仮称）40 名）

### (3) 設置場所 村山市（県立村山農業高校現有地）

### (4) 通学区域 県内一円

## 3 設置学科と目標

### (1) 農業に関する学科

#### ① 農業経営科（仮称）

##### ア 学科の目標

農業経営の基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、地域における農畜産物の生産をはじめ加工、流通・販売、経営までを総合的に学習させるとともに、農業に関する諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、地域農業や地域産業の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を身に付けた人材を育成します。

##### イ 主な学習内容

#### ○ 農業経営と食品産業に関する分野を主に学習する学科

- ・ 農業経営（生産・加工等）に関する知識と技術
- ・ 食品産業に関する知識と技術
- ・ 商品開発、流通販売に関する知識と技術
- ・ バイオテクノロジーに関する知識と技術

#### ② 環境創造科（仮称）

##### ア 学科の目標

森林及び地域資源の活用方法や農地の環境保全についての基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、農業や環境に関する諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、よりよい環境の創出や地域社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を身に付けた人材を育成します。

##### イ 主な学習内容

#### ○ 環境緑化と園芸作物の活用及び農地整備に関する分野を主に学習する学科

- ・ 環境保全と素材生産に関する知識と技術
- ・ ヒューマンサービスに関する知識と技術
- ・ バイオテクノロジーに関する知識と技術
- ・ 農地の整備と保全に関する知識と技術

## (2) 工業に関する学科

### ① 機械科（仮称）

#### ア 学科の目標

機械に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における工業の意義や役割を理解させるとともに、工業技術の諸問題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、工業と社会の発展及び環境・エネルギー問題の解決を図る創造的な能力をもった実践力のある人材を育成します。

#### イ 主な学習内容

- 機械の設計・加工・制御に関する知識と技術を主に学習する学科
  - ・ 機械を構成する各種材料の性質と加工法に関する知識と技術
  - ・ 機械を構成する各種部品や機構の設計・製図に関する知識と技術
  - ・ 機械を構成する各種装置の制御に関する知識と技術

### ② 電子情報科（仮称）

#### ア 学科の目標

電気、電子、情報技術等に関する知識・技術を習得させ、現代社会における工業の意義や役割を理解させるとともに、工業技術の諸問題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、工業と社会の発展及び環境・エネルギー問題の解決を図る創造的な能力と実践的な態度をはぐくみ、技術開発の中心となって活躍できる人材を育成します。

#### イ 主な学習内容

- 電気、電子、情報技術等に関する知識と技術を主に学習する学科
  - ・ 電気機器及び電力技術に関する知識と技術
  - ・ 電子回路及び電子計測制御に関する知識と技術
  - ・ コンピュータのハード・ソフトウェアに関する知識と技術
  - ・ コンピュータシステム及びプログラミングに関する知識と技術

## (3) 商業に関する学科

### ① 流通ビジネス科（仮称）

#### ア 学科の目標

ビジネスの諸活動に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ビジネスに対する望ましい心構えや理念を身に付けさせ、流通のスペシャリストとして、経済社会の変化に柔軟に対応し地域産業の発展に貢献できる起業家精神を持った人材を育成します。

#### イ 主な学習内容

- マーケティング分野を中心にビジネスに関する諸活動を主に学習する学科
  - ・ ビジネスに関する基礎的な知識と技術
  - ・ マーケティング及び商品開発に関する知識と技術
  - ・ 簿記及び財務諸表に関する知識と技術
  - ・ 情報通信ネットワークを活用した商取引等に関する知識と技術

## 4 教育課程

### (1) 教育課程編成の基本方針

新高校の基本理念を具現化するため、次の3点を基本的な方針として教育課程を編成します。

- ① 専門の高度な知識・技術の基盤となる基礎・基本の定着を図り、系統性に即して専門分野の学習を深めることができるよう科目を配置します。
- ② 生徒の多様な進路希望や興味・関心への対応、総合産業化などの産業の動向に対応する人材の育成を図るため、総合選択制や「課題研究」の充実など、他分野との連携と主体的学習を重視したカリキュラムを展開します。
- ③ 生徒一人ひとりがそれぞれの勤労観・職業観を確立し、学習への知的好奇心を醸成できるよう、キャリア教育の充実を図ります。

### (2) 教育課程の特徴

#### ① 総合選択制

- 「総合選択科目」として、生徒の多様な進路希望や興味・関心に対応する科目を配置します。2年生で1科目、3年生で2科目を選択して学習します。

#### 総合選択科目

- ・ 所属学科の専門の知識・技術を深化できる科目
- ・ 他学科の科目の学習により所属学科の学習内容を拡張できる科目
- ・ 大学等への進学希望の実現に必要な科目

- 科目の系統や活用を考えながら、他の学科の科目も選択できます。

#### <総合選択制を導入した教育課程の概要(案)> 【資料P18~19】

1年生	普通科目(18単位)	専門科目(10単位)	※
2年生	普通科目(16単位)	専門科目(11単位)	総合選択科目 (2単位)
3年生	普通科目(11~14単位)	専門科目(11~14単位)	総合選択科目 (4単位)

※ 「産業概論(仮称)」(1単位)

#### ② 専門分野の系統的学習

- 各学科の目標の実現を目指し、専門教育への円滑な導入を図る基礎科目から3年間の学習の総合化を図る科目まで専門科目を系統的に配置します。
- 各学科の基礎となる科目の時間を十分確保するとともに、チーム・ティーチング等による少人数指導を行い、確実な知識・技術の定着を図ります。
- 生徒の選択による学習を組み合わせることにより、生徒の主体的な学習意欲を引き出しながら専門性の深化を図ります。
  - ・ 農業の各学科は、2年生から二つのコースに分かれて学習します。
  - ・ 工業と商業の学科は、3年生に各学科の選択科目を開設します。
- 総合選択科目と関連づけながら、各分野のスペシャリストを目指す生徒の多様な進路実現に対応します。

＜専門教育の系統の概要（案）＞

農業	産業概論(仮称)	基礎科目	農業経営科（仮称）の専門科目	農産技術コースの専門科目	課題研究
				農産加工コースの専門科目	
		基礎科目	環境創造科（仮称）の専門科目	生活環境コースの専門科目	課題研究
				農業環境コースの専門科目	
工業	基礎科目	機械科（仮称）の専門科目	学科の選択科目	課題研究	
		電子情報科（仮称）の専門科目	学科の選択科目	課題研究	
商業	基礎科目	流通ビジネス科（仮称）の専門科目	学科の選択科目	課題研究	
					総合選択科目

③ キャリア教育の起点となる科目「産業概論（仮称）」（※）の開設

- 「仕事に就くこと」に焦点を当て、社会の仕組みや職業人として様々な状況に対処する方法など、キャリアを積み上げていく上で必要な知識を学びます。
- 学ぶことと働くことの意義や役割の理解を深め、自ら主体的にキャリアを形成していく力を育成します。
- 地域産業の現状と課題を理解し、自己の適性や進路目標に応じて、主体的に総合選択科目を選択できるようガイダンス機能を充実させます。
- 生徒一人ひとりが自分の将来について、実感を持ってとらえることができるよう、外部人材の積極的活用や体験的学習を重視します。

※ 「産業概論（仮称）」

学習指導要領が示す教科・科目以外に設けることができる学校設定科目として開設します。

総合学科において入学年次に原則履修科目としている「産業社会と人間」を参考に指導計画の検討を進めます。

[参考] 「産業社会と人間」の教育内容

- ・ 社会生活や職業生活に必要な基本的な能力や態度及び望ましい勤労観、職業観の育成に関すること
- ・ 我が国の産業の発展と、それがもたらした社会の変化についての考察に関すること
- ・ 自己の将来の生き方や進路についての考察及び各教科・科目の履修計画の作成に関すること

④ 産業の動向等に対応する「課題研究」(※)の充実

- 「考える」「つくる」「売る」までを一体的にとらえた課題を設定するなど、学科間で連携しながら、総合産業化など産業の動向に対応した教育を展開します。
- 探究的学習や協同的学習、言語活動を充実させ、課題対応への意欲やチームワーク、コミュニケーション力の育成など企業の人材ニーズに対応します。
- 地域産業界や関係機関等と連携しながら地域活性化の一翼を担う活動に取り組むなど、地域と密着した調査・研究を展開し、学習成果を地域に積極的に発信します。

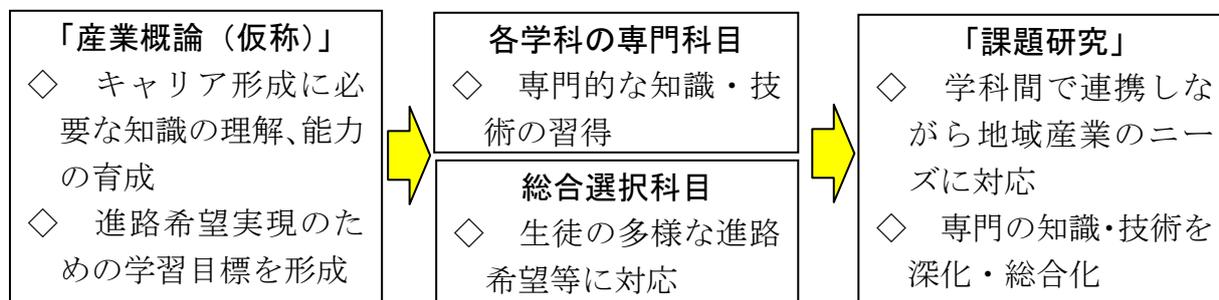
※ 「課題研究」

専門学科において全員が学ぶ必修科目として位置づけられており、各教科に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習活動を行います。

専門的な知識・技術の深化・総合化、問題解決能力の育成や自発的、創造的な学習態度などを育てることを目標に学習を進めます。

言語活動の充実など「課題研究」の改訂の基本的方向を踏まえるとともに、「総合的な学習の時間」の履修と同等の成果が期待できるよう、指導計画の検討を進めます。

< 「産業概論 (仮称)」 を起点とした専門教育の充実 >



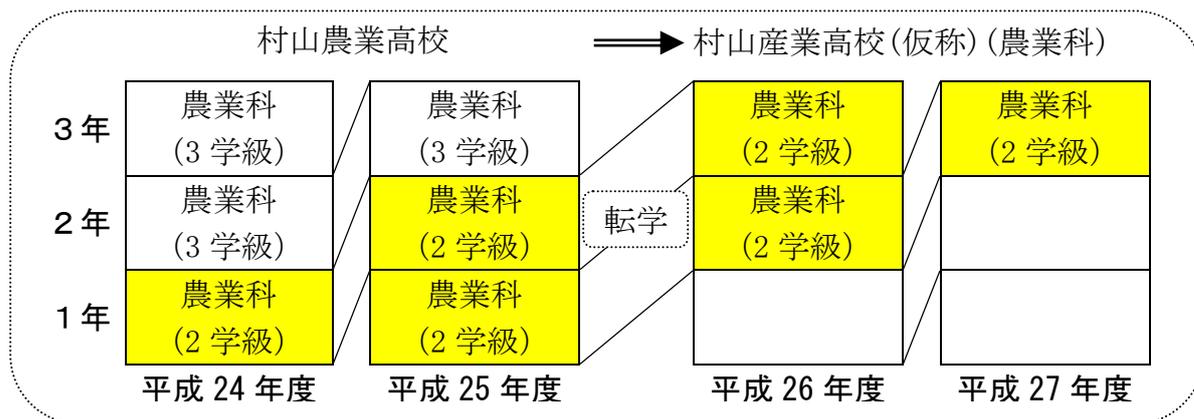
## 5 移行期の対応

### (1) 生徒の転学

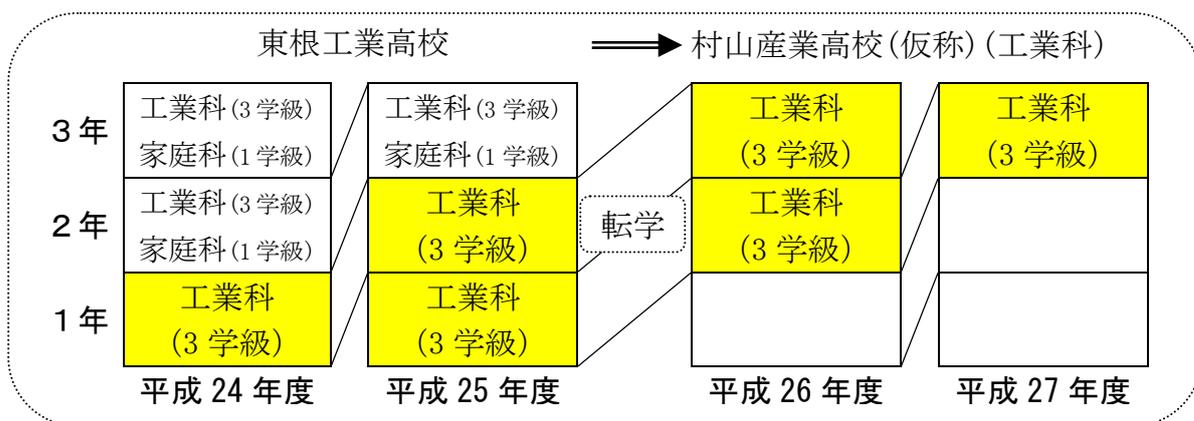
平成 24 年度、平成 25 年度に当該 2 校に入学した生徒は、平成 26 年度に村山産業高校（仮称）に転学します。

- 平成 24 年度入学者は、主に平成 23 年 4 月現在の中学校 3 年生です。
- 平成 25 年度入学者は、主に平成 23 年 4 月現在の中学校 2 年生です。

<村山農業高校入学生>

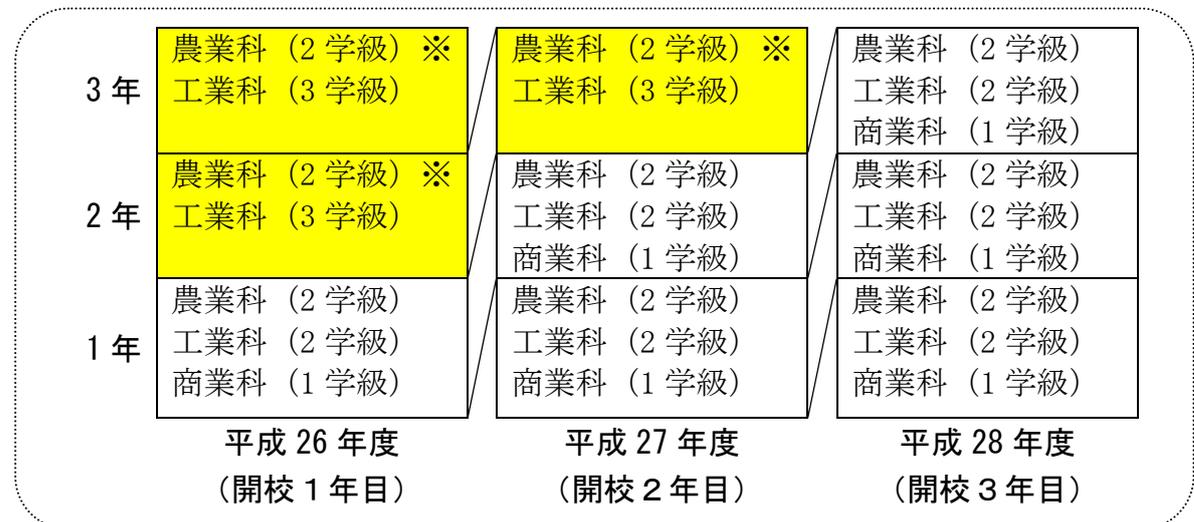


<東根工業高校入学生>



### (2) 学科構成の年次進行

※ 網掛け部分の生徒は、統合前の 2 校に入学し進級した生徒



### (3) 教育課程等の対応

- ① 村山産業高校(仮称)への転学後の授業は、統合前の学科ごとに定められた教育課程を引き継いで行われます。
- ② 生徒会活動や部活動は、平成 25 年度まで学校ごとに行われます。また、統合後の活動が円滑に行われるよう、合同での生徒会活動や部活動について検討します。
- ③ 生徒会活動や部活動については、生徒数や教職員数、生徒の希望等も踏まえながら、組織の見直しなどについて検討します。

## 6 開校に向けた準備組織及びスケジュール

### (1) 開校までの準備組織

「開校整備委員会」(平成 23 年度・24 年度)、「開校準備委員会」(平成 25 年度)を設置し、開校に向けた準備や広報活動を行います。

### (2) 主な検討内容とスケジュール

	年度	主な検討内容
開校整備委員会	H 23 ～ 24	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 教育課程、教育内容、入学者選抜、学校行事 等</li><li>○ 産振校舎整備計画、既存校舎等整備計画、設備・備品整備計画、運動施設利用計画 等</li><li>○ 制服・体育着、生徒会、部活動、通学に関すること 等</li><li>○ 校名等の募集、学校組織、学則、P T A、学校会計 等</li></ul>
開校準備委員会 (開校準備室)	H 25	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 校名、校歌、校章、中学生・保護者への広報 等</li><li>○ 設備や備品等整備、移転計画、各種業務委託・契約締結 等</li><li>○ 入学者の募集に関すること</li><li>○ 開校に向けた学校運営全般に関すること</li></ul>

## 7 施設整備計画

### (1) 基本的考え方

- ① 基本理念を踏まえ、総合選択制を導入した特色ある教育課程を実現する学習環境の整備を目指します。
- ② 産業教育振興の観点から、農業科、工業科、商業科に関する学習のための産振校舎等を新設し、新高校を目指す専門教育の充実を図ります。
- ③ 既存校舎の活用を基本としながら、学級数の増加に対応したHR教室、普通教科特別教室、管理施設、その他指導に必要な部屋（進路相談・生活相談等）を確保し、用途変更に伴う改修や必要に応じた修繕を行います。
- ④ 新しい学校として開校するという理念が、生徒や保護者、地域の方々に伝わるよう、魅力ある教育、よりよい教育という視点を踏まえた施設整備を目指します。

### (2) 建設校舎と場所等

- ① 県立村山農業高校現有地内に、農業科、工業科、商業科の実習等を行う産振校舎を建設します。
- ② 産振校舎は、既存校舎隣接地に約 8,000 m<sup>2</sup>規模で計画しております。

### (3) 建設計画（概要）

#### ① スケジュールの概要

平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
教育 基本計画	基本設計 実施設計	校舎一 部解体	産振校舎建設	開校
	改修 設計	既存校舎改修		外溝工事 校舎一部解体

#### ② 建設期間中の授業環境の確保

- ア 東根工業高校の生徒が村山産業高校（仮称）に移転（転学）後、東根工業高校の校舎解体等に着手します。
- イ 産振校舎建設に係る農業実習施設の解体に伴う代替施設は、既存施設を活用し確保します。



◆◆ 資 料 ◆◆

## 資料目次

---

1	策定委員会設置要綱	12
2	策定委員・作業部会委員名簿	13
3	検討の経過	17
4	教育課程（案）	18

## 村山産業高校（仮称）教育基本計画策定委員会設置要綱

（目的及び設置）

第1条 北村山地区の県立高校再編整備計画を踏まえ、村山産業高校（仮称）の教育内容等に関する教育基本計画（以下「教育基本計画」という。）を策定し、基本設計等に反映させるため、「村山産業高校（仮称）教育基本計画策定委員会」（以下「教育基本計画策定委員会」という。）を設置する。

（職務）

第2条 教育基本計画策定委員会は、村山産業高校（仮称）の教育内容等について検討し、「教育基本計画」を策定する。

（組織）

第3条 教育基本計画策定委員会は、11人の委員で組織し、別表1に掲げる者を充てる。

（委員の任期）

第4条 委員の任期は、委嘱した日から教育基本計画が策定される日までとする。ただし、委員が欠けた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第5条 基本計画策定委員会に委員長及び副委員長各1名を置く。

2 委員長は理事をもって充て、副委員長は教育次長をもって充てる。

3 委員長は、委員会を主宰する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

（会議）

第6条 教育基本計画策定委員会の会議は、必要に応じて委員長が招集する。

2 教育基本計画策定委員会の会議には、委員長が必要であると認める場合は、第3条に定める委員以外の者を出席させることができる。

（事務局）

第7条 教育基本計画策定委員会の円滑な運営を図るために事務局を置き、別表2に掲げる者を充てる。

（作業部会）

第8条 教育基本計画策定委員会は、検討内容に応じて作業部会を置く。

2 作業部会は、別表3に掲げた者で組織する。

3 作業部会には部会長及び副部会長を置き、委員長が部会に所属する委員の中から指名する。

4 部会長は、部の会務を掌握し、検討経過等について教育基本計画策定委員会に報告する。

5 副部会長は部会長を補佐する。

（庶務）

第9条 教育基本計画策定委員会の庶務は、県教育庁高校教育課高校改革推進室において処理する。

（その他）

第10条 この要綱に定めるもののほか、検討委員会の運営に関して必要な事項は、委員長が別に定める。

（附則）

この要綱は、平成22年2月17日から施行する。

<平成21年度>

別表1

平成21年度 村山産業高校(仮称)教育基本計画策定委員会 委員名簿

	職 名	氏 名
委員長	県教育庁理事	長谷川俊一
副委員長	県教育庁教育次長	渡部 泰山
委 員	山形大学大学院理工学研究科教授 ものづくり技術経営学専攻長	野長瀬裕二
〃	県教育庁総務課長	渡辺 一夫
〃	県教育庁総務課施設整備主幹	佐藤 富蔵
〃	県教育庁高校教育課長	阿部 和久
〃	村山市財政課企画主幹	細谷 健一
〃	北村山地区中学校長会代表	村山 清光
〃	県立村山農業高等学校長	室岡 和夫
〃	県立東根工業高等学校長	大津 清
〃	県立北村山高等学校長	小原 敏之

別表2

平成21年度 村山産業高校(仮称)教育基本計画策定委員会 事務局構成

	職 名	氏 名
事務局長	県教育庁高校教育課高校改革推進室長	田中 芳昭
事務局次長	〃 総務課課長補佐(予算担当)	保科 宏悦
〃	〃 総務課課長補佐(学校施設担当)	矢萩 良信
事務局員	〃 総務課教職員室室長補佐(高校管理担当)	津田 浩
〃	〃 高校教育課課長補佐(教育担当)	石川 真澄
〃	〃 〃 高校改革推進室室長補佐	佐藤 吉彦
〃	〃 〃 〃 高校改革専門員	大沼 敏美
〃	〃 〃 〃 高校改革主査	相澤 哲哉
〃	〃 〃 〃 高校改革主査	長岡 靖之

## 平成21年度 村山産業高校(仮称)教育基本計画策定委員会 作業部会員

班名	役職	職名	氏名
総括	部会長	県立村山農業高等学校長	室岡 和夫
	副部会長	県立東根工業高等学校長	大津 清
教頭		県立村山農業高等学校教頭	鈴木 高明
		県立東根工業高等学校教頭	菅野 伸司
事務		県立村山農業高等学校事務長	森谷 光一
		県立東根工業高等学校事務長	古沢 健一
教育計画班		県立村山農業高等学校長	室岡 和夫
		県立東根工業高等学校教頭	菅野 伸司
	班長	県立村山農業高等学校教諭	斎藤 信俊
		県立村山農業高等学校教諭	鈴木 正人
		県立村山農業高等学校教諭	後藤 弥生
	副班長	県立東根工業高等学校教諭	結城 俊広
		県立東根工業高等学校教諭	布川 みわ
		県立東根工業高等学校教諭	庄司 洋一
		県立北村山高等学校教諭	前田 俊明
施設・設備班		県立東根工業高等学校長	大津 清
		県立村山農業高等学校教頭	鈴木 高明
		県立村山農業高等学校事務長	森谷 光一
		県立東根工業高等学校事務長	古沢 健一
	副班長	県立村山農業高等学校教諭	阿部 仁
		県立村山農業高等学校教諭	菊地 拓己
		県立東根工業高等学校教諭	佐々木裕章
	班長	県立東根工業高等学校教諭	松田 浩明
		県立北村山高等学校教諭	阿部 優

<平成22年度>

別表1

平成22年度 村山産業高校(仮称)教育基本計画策定委員会 委員名簿

	職 名	氏 名
委員長	県教育庁理事	佐々木隆仁
副委員長	県教育庁教育次長	柳谷 豊彦
委 員	山形大学大学院理工学研究科教授 ものづくり技術経営学専攻長	野長瀬裕二
〃	県教育庁総務課長	渡辺 一夫
〃	県教育庁総務課施設整備主幹	椎名 憲次
〃	県教育庁高校教育課長	阿部 和久
〃	村山市企画財政課企画主幹	細谷 健一
〃	北村山地区中学校長会代表	村山 清光
〃	県立村山農業高等学校長	室岡 和夫
〃	県立東根工業高等学校長	大津 清
〃	県立北村山高等学校長	佐藤 正二

別表2

平成22年度 村山産業高校(仮称)教育基本計画策定委員会 事務局構成

	職 名	氏 名
事務局長	県教育庁高校教育課高校改革推進室長	横戸 隆
事務局次長	〃 総務課課長補佐(予算担当)	保科 宏悦
〃	〃 総務課課長補佐(学校施設担当)	渡邊 義寿
事務局員	〃 総務課教職員室室長補佐(高校管理担当)	津田 浩
〃	〃 高校教育課課長補佐(教育担当)	石川 真澄
〃	〃 〃 高校改革推進室室長補佐	鈴木 聖司
〃	〃 〃 〃 高校改革専門員	大沼 敏美
〃	〃 〃 〃 高校改革主査	相澤 哲哉

## 平成22年度 村山産業高校(仮称)教育基本計画策定委員会 作業部会員

班名	役職	職名	氏名
総括	部会長	県立村山農業高等学校長	室岡 和夫
	副部会長	県立東根工業高等学校長	大津 清
教頭		県立村山農業高等学校教頭	鈴木 高明
		県立東根工業高等学校教頭	槇 誠司
事務		県立村山農業高等学校事務長	佐久間 勉
		県立東根工業高等学校事務長	古沢 健一
教育計画班		県立村山農業高等学校長	室岡 和夫
		県立東根工業高等学校教頭	槇 誠司
	班長	県立村山農業高等学校教諭	斎藤 信俊
		県立村山農業高等学校教諭	鈴木 正人
		県立村山農業高等学校教諭	後藤 弥生
	副班長	県立東根工業高等学校教諭	結城 俊広
		県立東根工業高等学校教諭	布川 みわ
		県立東根工業高等学校教諭	庄司 洋一
		県立北村山高等学校教諭	前田 俊明
施設・設備班		県立東根工業高等学校長	大津 清
		県立村山農業高等学校教頭	鈴木 高明
		県立村山農業高等学校事務長	佐久間 勉
		県立東根工業高等学校事務長	古沢 健一
	副班長	県立村山農業高等学校教諭	阿部 仁
		県立村山農業高等学校教諭	菊地 拓己
		県立東根工業高等学校教諭	奥山 靖春
	班長	県立東根工業高等学校教諭	松田 浩明
		県立北村山高等学校教諭	日下部 雄

## 検討の経過

月 日	内 容	備 考
平成 22 年 2 月 17 日 (水)	第 1 回教育基本計画策定委員会 ・ 設置要綱、検討組織 ・ 検討内容、検討計画	私学会館
2 月 22 日 (月)	第 1 回作業部会 ・ 検討内容とスケジュール ・ 作業分担	村山農業高校
7 月 21 日 (水)	第 2 回作業部会 ・ 基本理念 ・ 各学科の学習内容の骨格 ・ 教育課程編成の骨格 ・ 既存施設の利活用計画 等	村山農業高校
7 月 26 日 (月)	第 2 回教育基本計画策定委員会 ・ 基本理念 ・ 設置学科、学科の目標 ・ 教育課程の編成方針 ・ 既存施設の利活用計画等	私学会館
7 月 29 日 (木)	他県先進校等への訪問調査 ・ 総合選択制及び学科連携に 関すること等	栃木県立小山北桜高校 栃木県立宇都宮白楊高校 栃木県教育委員会
9 月 24 日 (金)	第 3 回作業部会 ・ 基本理念 ・ 教育課程 ・ 施設整備計画	村山農業高校
9 月 29 日 (水)	第 3 回教育基本計画策定委員会 ・ 基本理念 ・ 教育課程 ・ 施設整備計画	教育委員室
平成 23 年 1 月 18 日 (火)	第 4 回作業部会 ・ 教育基本計画書 (案) ・ 制服の検討スケジュール	村山農業高校
2 月 17 日 (木)	第 4 回教育基本計画策定委員会 ・ 教育基本計画書 (案)	県庁 1601 会議室

## 村山産業高等学校(仮称) 教育課程(案)

1学年	普通科目必修(農18、工18、商18)														専門科目必修(農11、工11、商11)										29	30	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24			25
農業経営科(仮称)	国語総合	地理A	数学I	科学と人間生活	体育	保健	音楽I 美術I 書道I	コミュニケーション英語I	家庭総合	農業と環境	農業情報処理	植物バイオテクノロジー	果樹	産業概論	L	H	R										
環境創造科(仮称)	国語総合	地理A	数学I	科学と人間生活	体育	保健	音楽I 美術I 書道I	コミュニケーション英語I	家庭総合	農業と環境	農業情報処理	植物バイオテクノロジー	森林科学	産業概論	L	H	R										
機械科(仮称)	国語総合	地理A	数学I	科学と人間生活	体育	保健	音楽I 美術I 書道I	コミュニケーション英語I	家庭基礎	工業技術基礎	情報技術基礎	機械工作	製図	産業概論	L	H	R										
電子情報科(仮称)	国語総合	地理A	数学I	科学と人間生活	体育	保健	音楽I 美術I 書道I	コミュニケーション英語I	家庭基礎	工業技術基礎	情報技術基礎	電気基礎	電子回路	産業概論	L	H	R										
流通ビジネス科(仮称)	国語総合	地理A	数学I	科学と人間生活	体育	保健	音楽I 美術I 書道I	コミュニケーション英語I	家庭総合	ビジネス基礎	簿記	情報処理	産業概論	L	H	R											

2学年	普通科目必修(農16、工16、商16)														専門科目(農11、工11、商11)										総合選択		30	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26		27
農業経営科(仮称)	農業技術コース	国語総合	世界史A	数学II	化学基礎又は生物基礎	体育	保健	コミュニケーション英語I	コミュニケーション英語II	家庭総合	総合実習	農業情報処理	果樹	作物	畜産	選択A	L	H	R									
	農業加工コース												食品製造	野菜	微生物利用													
環境創造科(仮称)	生活環境コース	国語総合	世界史A	数学II	化学基礎又は生物基礎	体育	保健	コミュニケーション英語I	コミュニケーション英語II	家庭総合	総合実習	農業情報処理	環境緑化材料	草花	造園計画	選択A	L	H	R									
	農業環境コース												農業土木施工	測量	森林科学													
機械科(仮称)	国語総合	世界史A	数学II	物理基礎	体育	保健	コミュニケーション英語I	コミュニケーション英語II	家庭総合	実習			製図	機械工作	機械設計	選択A	L	H	R									
電子情報科(仮称)	国語総合	世界史A	数学II	物理基礎	体育	保健	コミュニケーション英語I	コミュニケーション英語II	家庭総合	実習	電気基礎	電子回路	プログラミング技術	製図	選択A	L	H	R										
流通ビジネス科(仮称)	国語総合	世界史A	数学II	生物基礎	体育	保健	コミュニケーション英語I	コミュニケーション英語II	家庭総合	マーケティング	財務会計I	ビジネス情報	選択A	L	H	R												

3学年	普通科目必修(農14、工11、商12)														専門科目(農11、工14、商13)										総合選択		30	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26		27
農業経営科(仮称)	農業技術コース	現代文A	現代社会	数学II	化学又は生物	体育	コミュニケーション英語II	コミュニケーション英語II	課題研究	課題研究	果樹	農業経営	農業機械	総合選択B	総合選択C	L	H	R										
	農業加工コース											食品製造	食品化学						食品流通									
環境創造科(仮称)	生活環境コース	現代文A	現代社会	数学II	化学又は生物	体育	コミュニケーション英語II	コミュニケーション英語II	課題研究	課題研究	生物活用	園芸装飾	造園技術	総合選択B	総合選択C	L	H	R										
	農業環境コース										農業土木施工	測量	グリーンライフ															
機械科(仮称)	現代文A	現代社会	数学A又は数学B	体育	コミュニケーション英語II	課題研究	課題研究	実習	実習	製図	選択工A	選択工B	総合選択B	総合選択C	L	H	R											
電子情報科(仮称)	現代文A	現代社会	数学A又は数学B	体育	コミュニケーション英語II	課題研究	課題研究	実習	実習	電子計測制御	通信技術	選択工A	選択工B	総合選択B	総合選択C	L	H	R										
流通ビジネス科(仮称)	現代文A	現代社会	数学II	体育	コミュニケーション英語II	課題研究	課題研究	総合実践	商品開発	選択商A	選択商B	総合選択B	総合選択C	L	H	R												

◇ 総合選択科目

2年生	総合選択A							
	科目	農				工		商
		農技	農加	生環	農環	機	電	流
農業科目	植物バイオテクノロジー	×	×	×	×	○	○	○
	作物	×	○	○	○	○	○	○
	草花	○	○	×	○	○	○	○
	野菜	○	×	○	○	○	○	○
	林産物利用	○	○	○	○	○	○	○
工業科目	設計・製図※	○	○	○	○	×	○	○
	工業数理基礎	○	○	○	○	○	×	○
	電力技術	×	×	×	×	×	○	×
	電子機械	×	×	×	×	○	×	×
商業科目	原価計算	×	×	×	×	×	×	○
	簿記	○	○	○	○	○	○	×
普通・家庭科目	古典A	○	○	○	○	○	○	○
	英語会話	○	○	○	○	○	○	○
	日本史A	○	○	○	○	○	○	○
	化学基礎	×	×	×	×	○	○	○

○ 選択可能  
 × 選択不可  
 □ 2・3年継続履修  
 △ 「化学基礎」を選択した生徒のみ

3年生	総合選択B							総合選択C							
	科目	農				工		科目	農				工		商
		農技	農加	生環	農環	機	電		農技	農加	生環	農環	機	電	
農業科目	生物活用	○	○	×	○	○	○	果樹	×	×	○	○	○	○	○
	農業機械	×	×	×	×	○	○	畜産	×	○	○	○	○	○	
	食品製造	○	×	○	○	○	○	グリーンライフ	○	○	○	×	○	○	
	植物バイオテクノロジー	×	×	×	×	□	□	林産物利用	□	□	□	□	□	□	
工業科目	生産システム技術	○	○	○	○	○	×	電子工作※	○	○	○	○	○	×	
	材料技術基礎	○	○	○	○	×	○	原動機	○	○	○	○	×		
	コンピュータシステム技術	×	×	×	×	×	×	地球環境化学	×	×	×	×	×		
	原動機	×	×	×	×	○	×	機械設計	×	×	×	×	○		
商業科目	財務会計Ⅱ	×	×	×	×	×	×	ビジネス経済	×	×	×	×	×		
	マーケティング	○	○	○	○	○	×	簿記	□	□	□	□	□		
普通・家庭科目	英語表現Ⅰ	○	○	○	○	○	○	国語表現	○	○	○	○	○		
	音楽Ⅱ	○	○	○	○	○	○	政治・経済	○	○	○	○	○		
	美術Ⅱ	○	○	○	○	○	○	物理	×	×	×	×	○		
	書道Ⅱ	○	○	○	○	○	○	化学	×	×	×	×	△		
	中国語※	○	○	○	○	○	○	フードデザイン	○	○	○	○	×		
	韓国語※	○	○	○	○	○	○								

※ 学校設定科目

◇ 工業科選択科目

コース名	1	2	3	4
	選択工A		選択工B	
進学コース	数学Ⅲ		数学Ⅲ	
ストベ コシ ャ スリ	機械科(仮称)	生産システム技術	電子機械	
		工業管理技術	機械設計 (製図CAD-CAM)	
電子情報科 (仮称)	ハードウェア技術	ソフトウェア技術		
		電気機器	電力技術	

◇ 商業科選択科目

コース名	1	2	3	4	5	6
	選択商A			選択商B		
流通ビジネス科(仮称)	広告と販売促進			経済活動と法		
	原価計算			電子商取引		



山形県立庄内総合高校

# 教育基本計画

平成31年（2019年）3月

山形県教育委員会



# 目 次

---

1	基本理念 .....	1
	(1) 目指す学校像	
	(2) 育てる生徒像	
	(3) 教育目標	
2	開校予定と入学定員等 .....	3
	(1) 開校予定	
	(2) 入学定員	
	(3) 設置場所	
	(4) 通学区域	
3	設置課程の目標と教育課程等 .....	4
	(1) 全日制 総合学科	
	(2) 定時制 総合学科	
	(3) 通信制 普通科	
	(4) 教育の特色（課程間の連携、特別支援教育、入学者選抜等）	
4	移行期の対応 .....	11
	(1) 開校時の対応	
	(2) 年次進行（イメージ）	
5	施設整備計画 .....	13
	(1) 基本的な考え方	
	(2) 建設校舎と場所等	
	(3) 建設計画	
6	開校に向けた準備組織及びスケジュール .....	14
	(1) 開校までの準備期間	
	(2) 主な検討内容とスケジュール	
◆	資料編◆ .....	15

## 1 基本理念

### ◇ 変化の激しい社会を、心豊かに、たくましく生きる人間の育成

現代社会は、グローバル化や情報化をはじめとする加速度的な変化の中にあります。このような社会においても豊かな心を失わず、変化に対応し、たくましく生きる人間の育成を目指します。

### ◇ 自分にふさわしい学習時間帯や学習形態の選択が可能な教育課程の提供

3課程を併設している利点を生かし、多様な生徒がそれぞれの実情に応じて学習の時間帯や形態を選択することができる教育課程を備えた新しいタイプの学校をつくれます。

### ◇ 学校と地域の連携・協働、開かれた学校づくりの推進

地域の方々の協力を得ながら教育活動の充実を図るなど、地域社会との連携・協働を深めます。また、学校が地域社会と接点を持ち、人々とつながりを保ちながら学ぶことのできる開かれた学校づくりを推進します。

#### (1) 目指す学校像

##### ① 全日制、昼間定時制、通信制を併設し一体的な学校運営をすることで、多様な学習ニーズに対応できる高校

ア 3つの課程を併設し、将来の進路目標や生活の状況等に応じて学習時間帯（一日または半日）や学習形態（学校での授業または通信添削による授業）を選択できるようにします。

イ 3課程併設校という学校規模を生かし、習熟度に応じた選択科目における少人数指導や、通信制における個別指導等を通して、基礎学習を充実させ、「学び直し」へも対応します。

ウ 異なる課程間において相互の科目の履修ができるようにします。そして、これらの活用により、定時制では全日制と同じく3年での卒業が可能になり、通信制では単位修得の機会が広がります。

## ② 生徒の多様な進路を実現する高校

- ア 全日制及び定時制では、総合学科の特色を生かし、共通科目と専門科目から豊富な選択科目を開設し、大学等への進学や就職などに幅広く対応します。
- イ 通信制では、通信制の特色を生かした学習指導や、生徒の多様な能力・適性に応じた指導の充実を図ります。また、定通併修を活用することにより総合学科で開設される専門教科の履修も可能とします。
- ウ 自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てるキャリア教育を積極的に推進します。

## ③ 社会に開かれ、地域と連携し、地域に貢献する高校

- ア 地域資源を生かした学習を充実させるとともに、地域と密接に関わりながら地域を活性化するなど地域貢献にも努めます。
- イ 自然体験やインターンシップ、ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、実習・調査・研究、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れます。

## (2) 育てる生徒像

### ① 多様性を尊重し、豊かな人間性を備え、思いやりの心や人との関わりを大切にする生徒

- ア 互いのよさや個性、多様な考えを認め合い、思いやりの心と生命や人権を尊重する心をもつ生徒を育てます。
- イ 進んで他者と協働する姿勢をもち、他の課程の生徒と交流したり地域や社会に積極的に参画したりなど、様々な人々との関わりを大切にする生徒を育てます。
- ウ 特別支援教育を推進し、生徒同士の学び合いや助け合いを通して生徒のもつ多様な能力を高め、互いに人格と個性を尊重し支え合う共生社会を担う生徒を育てます。

### ② 社会の変化に対応する能力を身に付け、自己を理解し、自らの進む道を切り拓くことができるたくましい生徒

- ア 急激な社会変化や様々な課題に対応し、主体的に生きていくために必要な能力を身に付けるために努力する生徒を育てます。
- イ 変化する社会の中で、自分のよさや可能性を認識した上で、自分にふさわしいキャリアを形成し、自らの人生を切り拓くことができる生徒を育てます。

③ 自己を向上させようとする高い志と生涯にわたって活躍する意欲をもち、よりよい社会の創造に貢献できる生徒

ア 生涯にわたって学び続け、自己を向上させようとする高い志をもち、地域や社会の中で生涯にわたり活躍する生徒を育てます。

イ 学校の中だけでなく身近な地域を含めた社会とのつながりの中で学ぶことで課題を見だし、自らの社会をよりよく変えていこうとする生徒を育てます。

(3) 教育目標

- ① 多様な活動を通して、他者を思いやり、郷土を愛する心豊かな人間を育成する。
- ② 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付け、社会の変化に対応し、自らの進む道を切り拓くことができる人間を育成する。
- ③ 他者との協働的な学習や活動を通して、多様性を認め合い、何事にも主体的に取り組む人間を育成する。

2 開校予定と入学定員等

(1) 開校予定 平成 34 年（2022 年）4 月

(2) 入学定員

全日制の課程 総合学科 80 名  
定時制の課程 総合学科 40 名（昼間部のみ）  
通信制の課程 普通科 80 名

(3) 設置場所 庄内町（庄内総合高校現有地）

(4) 通学区域

全日制の課程 }  
定時制の課程 } 県内一円  
通信制の課程 }

### 3 設置課程の目標と教育課程等

#### (1) 全日制 総合学科

##### ① 目標

総合学科の特色を生かし、生徒一人一人の興味・関心に基づく科目を開設し、主体的な学習活動を充実させ、それぞれの個性を最大限に伸ばさせます。基礎・基本を大切にするとともに、他者との協働を通して学びの質を高めます。地域との連携を大切にし、多くの「体験」と「出会い」から自分の在り方生き方を見つめ、地域社会の発展に貢献できる人材を育成します。

##### ② 教育課程編成の基本方針

共通教科・科目（以下「共通科目」という。）に、工業・商業・家庭・福祉や体育などの専門教科・科目（以下「専門科目」という。）や理科・芸術などの学校設定科目を加え、職業選択や実生活に役立つ学びを通して社会に積極的に寄与する態度を養うとともに、生涯にわたりスポーツや芸術に親しむ態度を養います。

地域の人材を活用する「ポイント講師制度」の活用や地域をフィールドとした学びを取り入れ、多様な教育内容を展開します。

##### ③ 教育課程の特徴

###### ア 系列<sup>※1</sup>

###### ○教養系列（仮称）

- ・基礎・基本の定着を図り、粘り強く問題解決に取り組むことができ、自分の考えを表現できる生徒を育成します。
- ・国語・地歴・数学・理科・英語等の選択科目を開設します。さらに、興味・関心に応じて自由に選択できる専門科目等を開設します。また、文章を書く力や考えを伝え合う力を育成する授業を展開します。

###### ○スポーツ・芸術系列（仮称）

- ・運動の合理的な実践や健康についての理解を通して、生涯スポーツの推進及び発展に寄与し、心身ともに健康な生活を送る態度を育成します。
- ・音楽や美術などの創造的な表現の能力や芸術の鑑賞の能力を伸ばし、豊かな感性と生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てます。
- ・体育の専門科目と芸術の学校設定科目等を開設します。さらに、興味・関心に応じて自由に選択できる専門科目等を開設します。身体表現、演奏、創作活動等を通して資質・能力を伸ばす授業を展開します。

<sup>※1</sup> 系列…興味・関心や能力・適性、卒業後の進路希望に合わせて科目を選択する目安になるように、相互に関連の深い、いくつかの科目をまとめたグループ(科目群)のこと。

### ○生活・福祉系列（仮称）

- ・健康で快適な家庭生活の在り方について、生活文化（衣・食・住）や保育・福祉・介護等、生活の視点から見つめなおし、日常生活の改善や生活者への理解を深め、豊かな生活文化の創造に取り組む能力・態度を育成します。
- ・家庭の専門科目と福祉の専門科目を開設します。さらに、興味・関心に応じて自由に選択できる専門科目等を開設します。豊かな生活文化を創造するために必要な実践的・体験的な活動を重視します。

### ○産業クリエイト系列（仮称）

- ・工業生産に対する理解を深めるため、生産現場で用いられる機械の基本的操作を習得させるなど体験的学習を重視します。安全で合理的な生産活動ができる能力・態度を育成します。
- ・ビジネスに関する基礎的な知識やビジネスの現場で必要不可欠なソフトの操作などの技術やビジネスマナーを習得し、職業人として活躍する能力・態度を育成します。
- ・工業の専門科目と商業の専門科目を開設します。さらに、興味・関心に応じて自由に選択できる専門科目等を開設します。各種検定試験の合格を目指すとともに、職業人として活躍する資質・能力を伸ばす授業を展開します。

## イ 特徴

- 義務教育段階での学習内容の確実な定着を図ることをはじめ、基礎・基本を大切に、社会の中で活用できる知識・技能を習得できるような教育課程を編成します。
- 1年次には、国語・数学・英語等の共通科目を学習します。2年次から系列ごとに設けられた総合選択科目<sup>※2</sup>から自分の興味・関心に基づいて選択し学習することができます。また、年次や系列の枠を超えて選択できる自由選択科目<sup>※3</sup>から学びたい科目を自由に選択することができます。
- 総合学科の原則履修科目<sup>※4</sup>である「産業社会と人間」は、自己の生き方を探ることを通して、職業を選択し、決定する場合に必要な能力と態度を養うとともに、将来の職業生活を営む上で必要な態度やコミュニケーション能力を養います。

---

※2 総合選択科目…自分の進路に応じて選択する、体系性や専門性において関連する科目。

※3 自由選択科目…自分の興味や関心に応じて選択する科目。

※4 原則履修科目…総合学科の全ての生徒が原則として履修する科目。

#### ④ 教育活動のイメージ

##### ア 授業時間帯

時間帯	午前				午後			
時限	1	2	3	4	5	6	7	8
授業展開	授業							

※全日制と定時制は同じチャイムで学校生活を過ごします。

##### イ 教育課程

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30			
1年		国語		地歴		公民		数学			理科	保健	体育		芸術	英語		家庭	情報		◆産人	LHR												
2年	教養														●共通科目																			
	スポーツ・芸術	地歴		理科		保健		体育		家庭		国語	数学	英語			●共通科目 ●専門科目		共通科目 専門科目												総合探究		LHR	
	生活・福祉														●専門科目																			
	産業クリエイト														●専門科目						共通科目													
3年	教養														●共通科目																			
	スポーツ・芸術	体育		国語		地歴		数学		英語						●共通科目 ●専門科目		共通科目		共通科目		共通科目										総合探究		LHR
	生活・福祉														●専門科目		共通科目		専門科目		専門科目													
	産業クリエイト														●専門科目								専門科目											

- 必修科目
- 原則履修科目
- 総合選択科目
- 自由選択科目

## (2) 定時制 総合学科

### ① 目標

総合学科の特色を生かし、多様な科目を開設して生徒一人一人が実社会で活躍し主体的に生きる力を養うとともに、それぞれの個性を最大限に伸ばさせます。基礎・基本を大切に、「学び直し」を充実させるとともに、他者との協働を通して学びの質を高めます。

自分の在り方生き方を見つめられるように、地域社会と連携し、様々な「体験」と「出会い」を通して地域社会に貢献できる人材を育成します。

### ② 教育課程編成の基本方針

卒業にかかる年数（修業年限）は4年を標準とします。また、定通併修等の異なる課程間の履修、校外における学修等による単位認定や自由選択群を設定するなど、3年でも卒業できる仕組みをつくります。一人一人のライフスタイルやニーズに応じた学習ができるようにします。

義務教育段階での学習内容の確実な定着を図る「学び直し」を充実させ、高校の学習のベースとなる基礎学力を養います。共通科目の基礎・基本を大切にするとともに、工業・商業・家庭などの選択科目を開設し、職業選択や実生活に役立つ学びを通して社会に積極的に寄与する態度を養います。

全定併修科目、地域人材の活用や地域をフィールドとした学びも取り入れます。

### ③ 教育課程の特徴

#### ア 系列

##### ○教養系列（仮称）

- ・「学び直し」から学習を始め、効果的に基礎・基本の定着を図るなど、生徒個々の理解度に応じた学習活動を推進し、確かな学力を身に付け、地域社会への貢献活動に参画できる生徒を育成します。
- ・国語・地歴・数学・理科・英語等の選択科目を開設します。さらに、興味・関心に応じて自由に選択できる共通科目・専門科目等を開設します。着実な学びを通して文章力やコミュニケーション力を磨き、社会で活躍できる能力を育成する授業を展開します。

##### ○生活・産業系列（仮称）

- ・社会の仕組みや衣食住、福祉、仕事などを学び、人々が互いに関わり合って生きて暮らす資質・能力を育成します。
- ・工業・商業・家庭・福祉などの専門科目等を開設します。さらに、興味・関心に応じて自由に選択できる共通科目・専門科目等を開設します。実践的・体験的な活動を通して様々な技能を学び、豊かな人間性をもち職業人として活躍する基礎を培う授業を展開します。

#### イ 特徴

- 1、2年次では、主に国語・数学・英語等の共通科目を学習します。3年次から系列

ごとに設けられた総合選択科目から自分の興味・関心に基づいて選択し学習できます。

○総合学科の原則履修科目である「産業社会と人間」は、自己の生き方を探ることを通して、職業を選択し、決定する場合に必要な能力と態度を養うとともに、将来の職業生活を営む上で必要な態度やコミュニケーション能力を養います。

○朝のSHR後に短い学習時間（20分）を設定し、国語・数学・英語等を中心に、高校の学習のベースとなる「学び直し」等を行い、修得単位数に含めることを検討します。

○2、3年次では、時程外（7、8校時）に系列の枠を超えて選択できる自由選択群を設け、学びたい科目を選択できるよう検討を進めます。

○4年次に学校設定科目「卒業研究」を開設し、インターンシップ等を通して社会の仕組みや職業、他者との関わりを探究する活動を検討します。

#### ④ 教育活動のイメージ

##### ア 授業時間帯

時間帯	午前				午後			
時限	1	2	3	4	5	6	7	8
授業展開		学習	授業				選択	

※全日制と定時制は同じチャイムで学校生活を過ごします。

##### イ 教育課程

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
1年		国語	地歴	数学	理科	保健	体育	英語	家庭	情報	◆産人	LHR															
2年		国語	公民	数学	理科	保健	体育	芸術	英語	商業	総合探究	LHR	共通科目 専門科目														
3年	教養	地歴	数学	体育	国語	英語	●共通科目				総合探究	LHR	共通科目 専門科目														
	生活・産業						●専門科目																				
4年	教養	国語	数学	英語	体育	●共通科目				卒業研究	LHR	※上記 点線内の科目： 放課後に開設される選択科目 (ぶらさがり)															
	生活・産業					●専門科目																					

- 必修科目
- 原則履修科目
- 総合選択科目
- 自由選択科目

### (3) 通信制 普通科

#### ① 目標

計画的な学習を通して自主性・自立性を養い、実践力を高め、自らの道を切り拓くことができる「たくましい力」を身に付けさせます。豊かな心を育み、個性の伸長を図りながら、他者と協調していく生活態度を育てます。心身の健康管理に努めさせ、自己実現のための強い意志と持続力を培い、積極的に社会の進展に寄与する人材を育成します。

#### ② 教育課程編成の基本方針

生徒自らが、学習時間・学習場所・学習進度を設定した上で、自分のペースで学べるといった通信制の特色を生かしながら、協働的な学習も取り入れて、生徒の多様な能力・適性に応じた学習指導の充実を図ります。

共通科目に加え、定通併修を活用することにより総合学科で開設される専門科目の履修等も可能とします。定通併修や技能審査等の成果も単位として認定します。全日制・定時制との連携を図り、社会体験や職業体験などの校外での学習活動を取り入れます。

#### ③ 教育課程の特徴

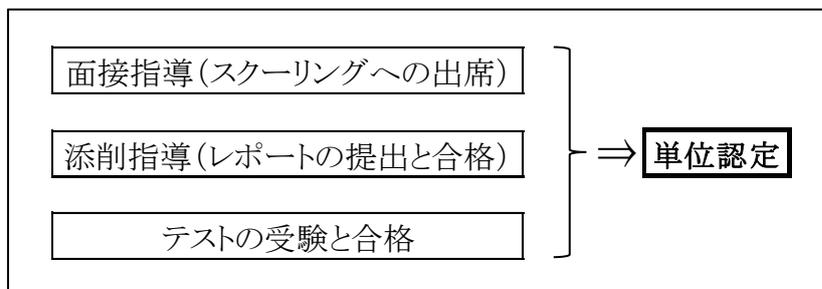
##### ア 学習のシステム

○学習の方法は、自宅での自学自習と学校での面接指導・添削指導が中心です。学校での指導は、面接指導日（スクーリング）に集中して受けることができます。年間の面接指導日は日曜日に20日程度（月に2～3回）で計画しています。

○自学自習の成果は、学校で配付する課題報告書（レポート）に書いて提出し、添削指導を受けます。

○面接指導日（スクーリング）において、科目ごとに定められた時間以上の面接指導を受けるとともに、定められた回数の添削指導を受けると、テストを受験することができます。科目ごとに定められた回数分のテストに全て合格すると、その科目の単位の修得が認められます。

<イメージ図>





#### (4) 教育の特色（課程間の連携、特別支援教育、入学者選抜等）

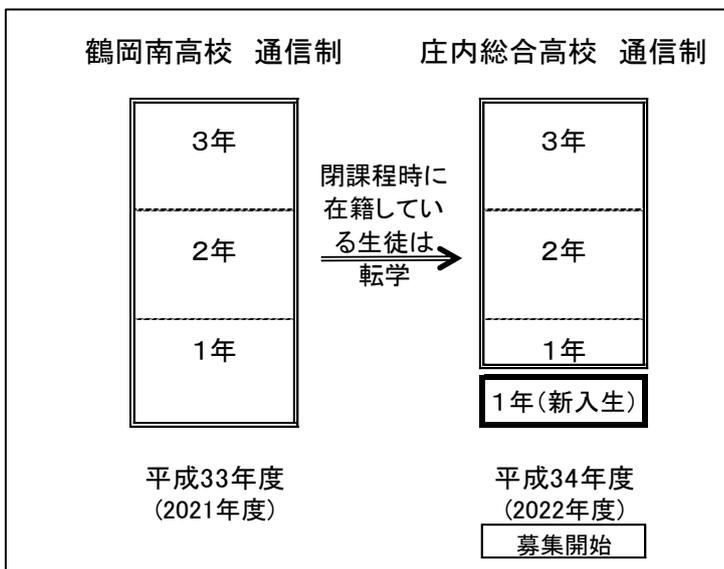
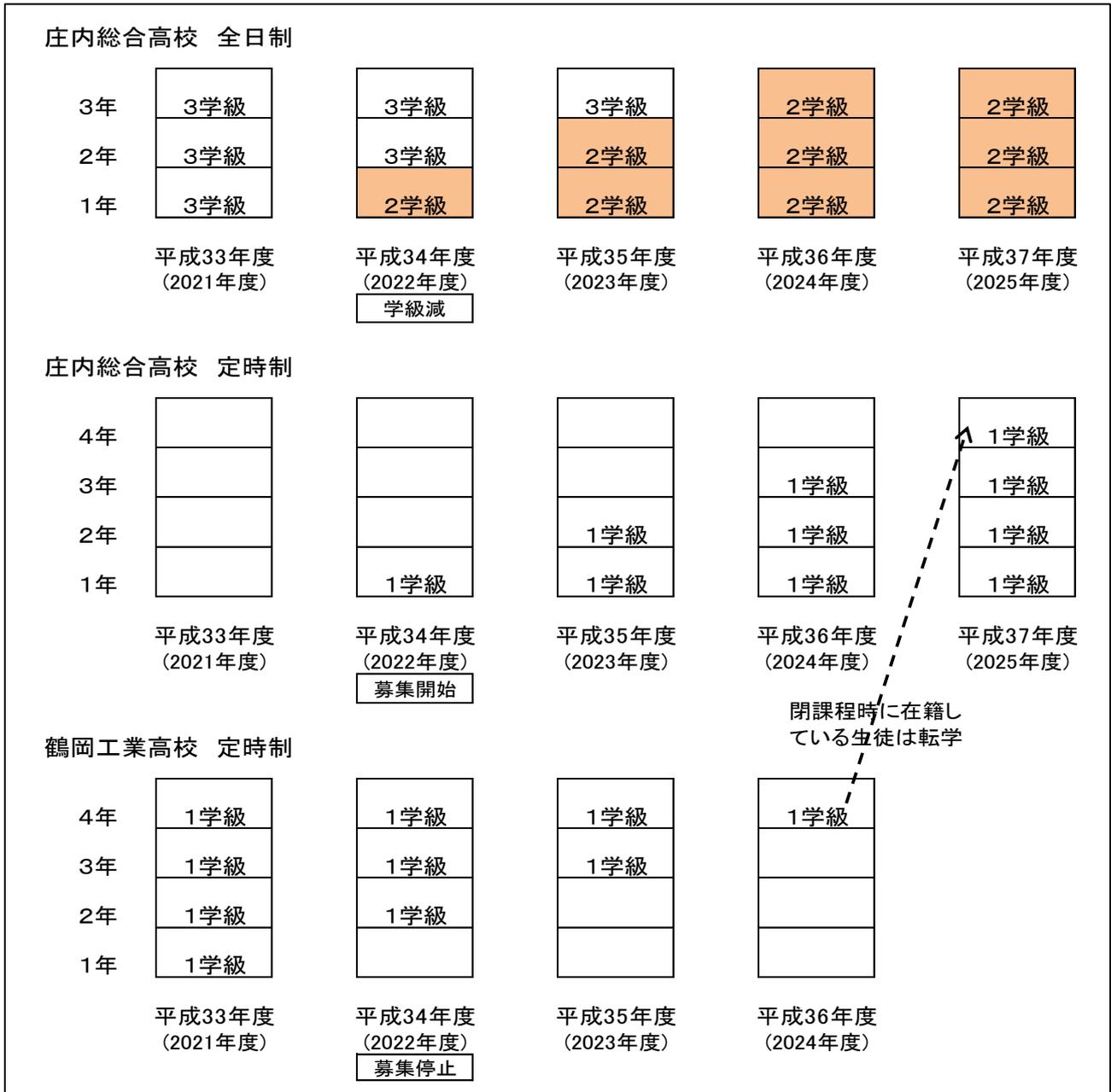
- 異なる課程間における相互履修は、定時制と通信制の間における「定通併修」及び全日制と定時制の間における履修を計画しています。
- 学校行事は原則としてそれぞれの課程で行うこととしますが、全日制と定時制は一部の行事を合同で行う予定です。通信制は単独で行うことを基本にしています。また、生徒会活動や部活動の在り方は開校までに定めます。
- 特別支援教育の充実のため、スクールカウンセラー・特別支援教育支援員等を配置し、生徒が生活や学習上の課題を克服して自分の能力や才能を十分に伸ばすことができる環境を整えるよう計画しています。
- 入学者は、全日制・定時制それぞれの課程で募集し、課程間の併願はできません。通信制は全日制・定時制とは別日程で募集します。入学者選抜についての詳細は平成 33 年度（2021 年度）に公表します。また、転学や編入学の在り方は開校までに定めます。

## 4 移行期の対応

### (1) 開校時の対応

- ① 平成 33 年度（2021 年度）末の時点で庄内総合高校全日制に在籍している生徒は、平成 34 年度（2022 年度）も引き続き同校に在籍します。
- ② 庄内総合高校定時制は平成 34 年度（2022 年度）入学者選抜より募集を開始します。  
鶴岡工業高校定時制は平成 34 年度（2022 年度）入学者選抜より募集を停止し、在校生はそれ以後も鶴岡工業高校の校舎で学び、平成 36 年度（2024 年度）末で閉課程とします。その時点で同校定時制に在籍している生徒は本人の意思等を確認した上で、平成 37 年度（2025 年度）から庄内総合高校定時制に転学し在籍することになります。
- ③ 庄内総合高校通信制は平成 34 年度（2022 年度）入学者選抜より募集を開始します。  
鶴岡南高校通信制は平成 33 年度（2021 年度）末で閉課程とし、その時点で在籍している生徒は本人の意思等を確認した上で、平成 34 年度（2022 年度）から庄内総合高校通信制に転学し在籍することになります。

(2) 年次進行 (イメージ)



## 5 施設整備計画

### (1) 基本的な考え方

- ① 基本理念を踏まえ、新しい庄内総合高校の特色ある教育課程を実現する学習環境の整備を目指します。
- ② 既存校舎の活用を基本としながら、耐震性のない特別教室棟を改築し、産振棟を通信棟に改修するなど、全日制・定時制・通信制の3課程併設に対応した整備を行います。
- ③ 全日制・定時制・通信制それぞれの課程の生徒が、落ち着いて充実した学校生活を送れるように、HR教室、特別教室、その他指導に必要な部屋を確保するとともに、動線にも配慮します。

### (2) 建設校舎と場所等

- ① 庄内総合高校現有地内に、現在の特別教室棟と産振棟の機能を備えた新しい特別教室棟を建設します。既存校舎管理棟隣接地に約 3,000 m<sup>2</sup>規模で計画しています。
- ② 建設される特別教室棟以外は、用途変更に伴う改修や必要に応じた修繕を施した上で既存校舎を活用します。

### (3) 建設計画

平成 30 年度 (2018 年度)	平成 31 年度 (2019 年度)	平成 32 年度 (2020 年度)	平成 33 年度 (2021 年度)	平成 34 年度 (2022 年度)
教育基本計画	基本設計 実施設計	特別教室棟建設		開校
			既存校舎 解体・改修	

特別教室棟の建設後、旧特別教室棟の解体及び産振棟の改修を行う予定です。

## 6 開校に向けた準備組織及びスケジュール

### (1) 開校までの準備期間

「開校整備委員会」(平成 31 年度・32 年度)、「開校準備委員会」(平成 33 年度)を設置し、開校に向けた準備や広報活動を行います。

### (2) 主な検討内容とスケジュール

	平成 31 年度 (2019 年度)	平成 32 年度 (2020 年度)	平成 33 年度 (2021 年度)
準備組織	開校整備委員会		開校準備委員会
検討内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育課程、教育内容、特別支援教育、入学者選抜、教務、学校行事 等</li> <li>○校舎整備計画、既存校舎等整備計画、設備・備品整備計画 等</li> <li>○制服・体育着、生徒会、部活動、通学に関すること 等</li> <li>○学校組織、学則、P T A、学校会計、広報 等</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○入学者の募集、中学生・保護者への広報 等</li> <li>○設備や備品等整備、各種業務委託・契約締結 等</li> <li>○開校に向けた学校運営全般に関すること</li> </ul>

◆◆ 資料編 ◆◆

## 庄内総合高校教育基本計画策定委員会設置要綱

### (目的及び設置)

第1条 田川地区の県立高校再編整備計画を踏まえ、庄内総合高校の教育内容等に関する教育基本計画（以下「教育基本計画」という。）を策定するため、「庄内総合高校教育基本計画策定委員会」（以下「教育基本計画策定委員会」という。）を設置する。

### (職務)

第2条 教育基本計画策定委員会は、庄内総合高校の教育内容等について検討し、「教育基本計画」を策定する。

### (組織)

第3条 教育基本計画策定委員会は、10人の委員で組織し、別表1に掲げる者を充てる。

### (委員の任期)

第4条 委員の任期は、委嘱した日から教育基本計画が策定される日までとする。ただし、委員が欠けた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

### (委員長)

第5条 教育基本計画策定委員会に委員長及び副委員長各1名を置く。

2 委員長は教育次長をもって充て、副委員長は教育庁総務課長をもって充てる。

3 委員長は、委員会を主宰する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

### (会議)

第6条 教育基本計画策定委員会の会議は、必要に応じて委員長が招集する。

2 教育基本計画策定委員会の会議には、委員長が必要であると認める場合は、第3条に定める委員以外の者を出席させることができる。

### (事務局)

第7条 教育基本計画策定委員会の円滑な運営を図るために事務局を置き、別表2に掲げる者を充てる。

### (作業部会)

第8条 教育基本計画策定委員会は、検討内容に応じて作業部会を置く。

2 作業部会は、別表3に掲げた者で組織する。

3 作業部会には部会長及び副部会長を置き、委員長が部会に所属する委員の中から指名する。

4 部会長は、部の会務を掌握し、検討経過等について教育基本計画策定委員会に報告する。

5 副部会長は部会長を補佐する。

### (庶務)

第9条 教育基本計画策定委員会の庶務は、県教育庁高校教育課高校改革推進室において処理する。

### (その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、教育基本計画策定委員会の運営に関して必要な事項は、委員長が別に定める。

### (附則)

この要綱は、平成30年5月31日から施行する。

別表 1

## 平成 30 年度 庄内総合高校教育基本計画策定委員会 委員名簿

	職 名	氏 名
委員長	県教育庁教育次長	柿崎 則夫
副委員長	県教育庁総務課長	奥山 賢
委員	山形大学男女共同参画推進室准教授	井上 榮子
〃	県教育庁総務課施設整備主幹	熊谷 岳郎
〃	県教育庁高校教育課長	坂尾 聡
〃	庄内町教育委員会教育長	菅原 正志
〃	田川地区中学校長会代表（庄内町立余目中学校長）	佐藤 真哉
〃	県立庄内総合高等学校長	高橋たず子
〃	県立鶴岡南高等学校長	石川 真澄
〃	県立鶴岡工業高等学校長	阿部 進

別表 2

## 平成 30 年度 庄内総合高校教育基本計画策定委員会 事務局構成

	職 名	氏 名
事務局長	県教育庁高校教育課高校改革推進室長	須貝 英彦
事務局次長	〃 総務課課長補佐（予算担当）	川井 幸樹
〃	〃 総務課課長補佐（学校施設担当）	大瀧 哲
事務局員	〃 教職員課課長補佐（高校管理担当）	大沼 晋
〃	〃 高校教育課課長補佐（教育担当）	渡邊 晃
〃	〃 〃 高校改革推進室室長補佐	伊藤 久敏
〃	〃 〃 〃 高校改革主査	丹野 陽

## 平成 30 年度 庄内総合高校教育基本計画策定委員会 作業部会員

班 名	役 職	職 名	氏 名
総 括	部会長	県立庄内総合高等学校長	高橋たず子
	副部会長	県立庄内総合高等学校事務長	尾形 太志
教育計画班		県立庄内総合高等学校教頭	難波 理
		庄内町教育委員会教育課教育施設係長	押切 崇寛
		県立鶴岡南高等学校（通信制）教頭	砂田 智
		県立鶴岡工業高等学校（定時制）教頭	森 雅光
		県立庄内総合高等学校教諭	小松原直樹
		県立庄内総合高等学校教諭	榊原 勝典
		県立庄内総合高等学校教諭	井本 吉彦
施設設備班		県立庄内総合高等学校事務長	尾形 太志
		県立庄内総合高等学校教頭	難波 理
		県教育庁総務課施設企画主査	廣谷 祐二
		県立庄内総合高等学校教諭	本間 義久
		県立庄内総合高等学校主任実習教諭	水口 修一
		県立鶴岡南高等学校（通信制）教諭	菅原 秀記

## 検討の経過

日時	会議等	内容	場所
平成30年 5月31日	第1回教育基本計画策定委員会	業務と組織、スケジュール等	県庁
6月7日	第1回作業部会	組織とスケジュールの確認、校舎・施設見学	庄内総合高校
6月20日 ～22日	学校視察	教育課程、時間割の運営、全日制と定時制の交流等についての視察	埼玉県立吉川美南高校 滋賀県立能登川高校
7月19日	学校視察	昼間定時制についての視察	酒田西高校定時制
8月28日	第2回作業部会	第2回教育基本計画策定委員会の原案の検討（基本理念、各課程の教育課程、新校舎の概要等）	庄内総合高校
9月13日	第2回教育基本計画策定委員会	基本理念、各課程の教育課程、新校舎の概要等	県庁
10月30日	第3回作業部会	第3回教育基本計画策定委員会の原案の検討（基本理念、各課程の教育課程等）	庄内総合高校
11月14日	第3回教育基本計画策定委員会	基本理念、各課程の教育課程等	私学会館
平成31年 1月18日	第4回作業部会	第4回教育基本計画策定委員会の原案の検討（庄内総合高校教育基本計画）	庄内総合高校
1月30日	第4回教育基本計画策定委員会	庄内総合高校教育基本計画	県庁

<お問い合わせ>

山形県教育庁高校教育課高校改革推進室

〒990-8570 山形市松波二丁目 8-1

TEL 023 (630) 2493 FAX 023 (630) 2774

※ 庄内総合高校教育基本計画は県ホームページでもご覧になれます。  
<https://www.pref.yamagata.jp/ou/kyoiku/700013/kokokaikaku/>